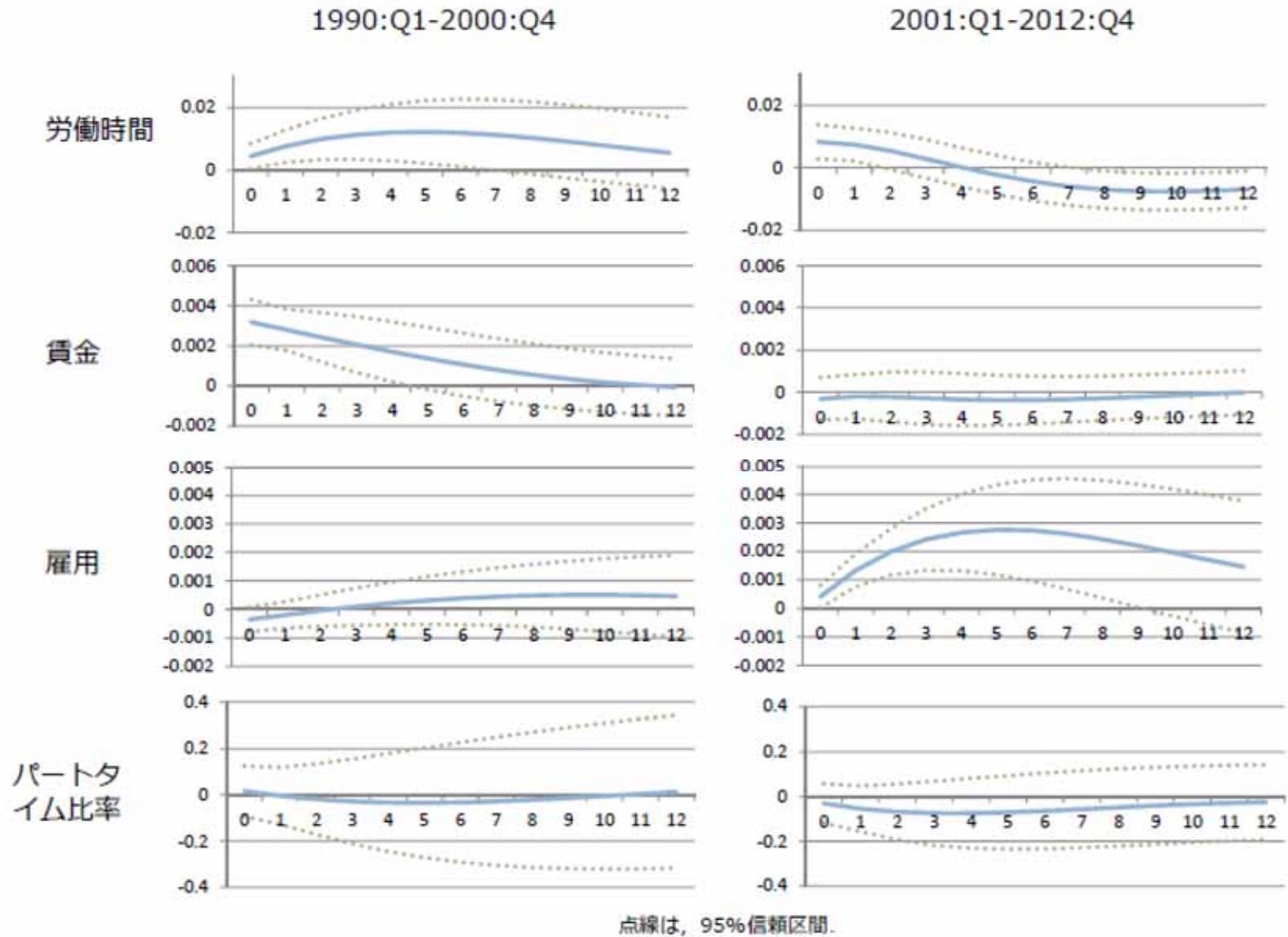


# 売上高のショックに対するインパルス応答

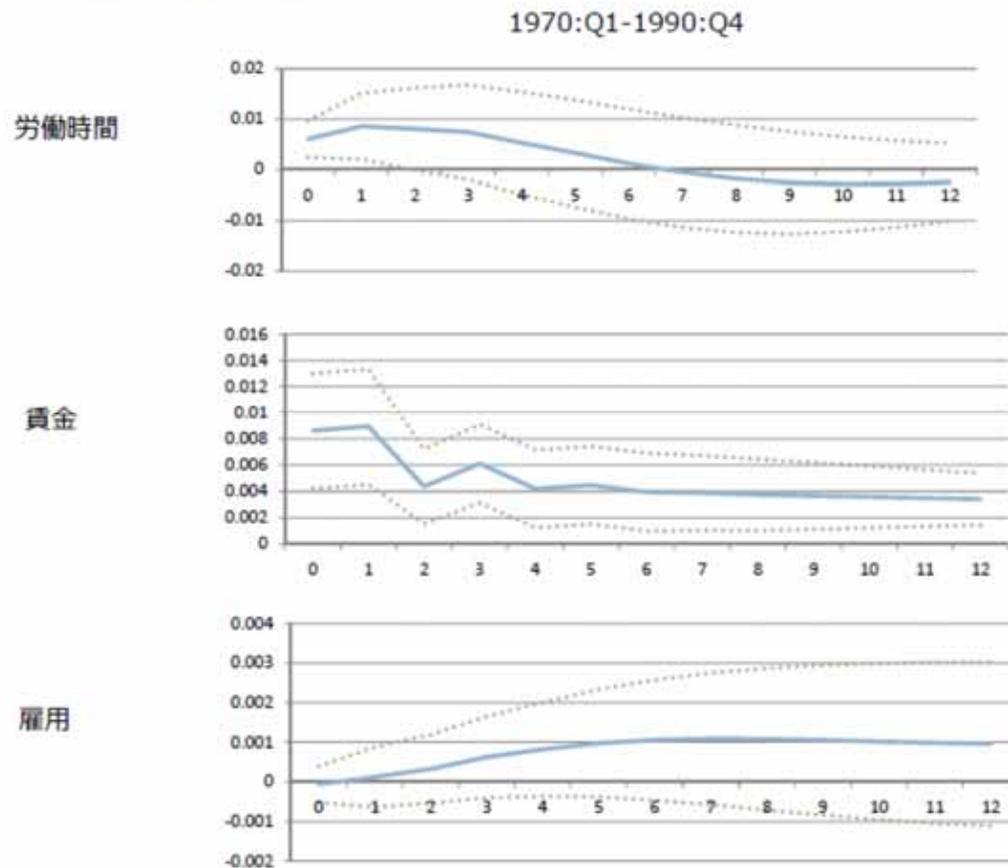
図表10



1標準偏差の大きさの売上高のショック(増加)に対する各変数の変化率を4半期ごとに表示。

平成25年10月4日開催 経済の好循環実現検討専門チーム(第2回会合) 照山委員提出資料

- 1970年代～1980年代



1980年以前については、賃金は「現金給与総額」、事業所規模は30人以上。

- 企業業績 賃金 雇用への波及過程
- VAR分析（四半期）

「法人企業統計」売上高（企業物価で実質化）

「毎月勤労統計」総労働時間，所定内給与（消費者物価で実質化），雇用者数，パートタイム比率

$$A_0 X_t = A_1 X_{t-1} + \dots + A_p X_{t-p} + \varepsilon_t$$

同時点相関の制約

$$A_0 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ a_{21} & 1 & 0 & 0 & 0 \\ a_{31} & a_{32} & 1 & 0 & 0 \\ a_{41} & a_{42} & a_{43} & 1 & 0 \\ a_{51} & a_{52} & a_{53} & a_{54} & 1 \end{pmatrix} \quad X_t = \begin{pmatrix} \ln(s) \\ \ln(e) \\ part \\ \ln(w) \\ \ln(h) \end{pmatrix}$$

$s$ : 売上高, 「法人企業統計」

$e$ : 労働者数,  $part$ : パートタイム労働者比率,

$w$ : 所定内給与 (1人当たり),  $h$ : 総労働時間 (1人当たり)  
5人以上規模の事業所「毎月勤労統計」四半期平均値に集計